

平成20年度決算状況及び平成21年度事業計画

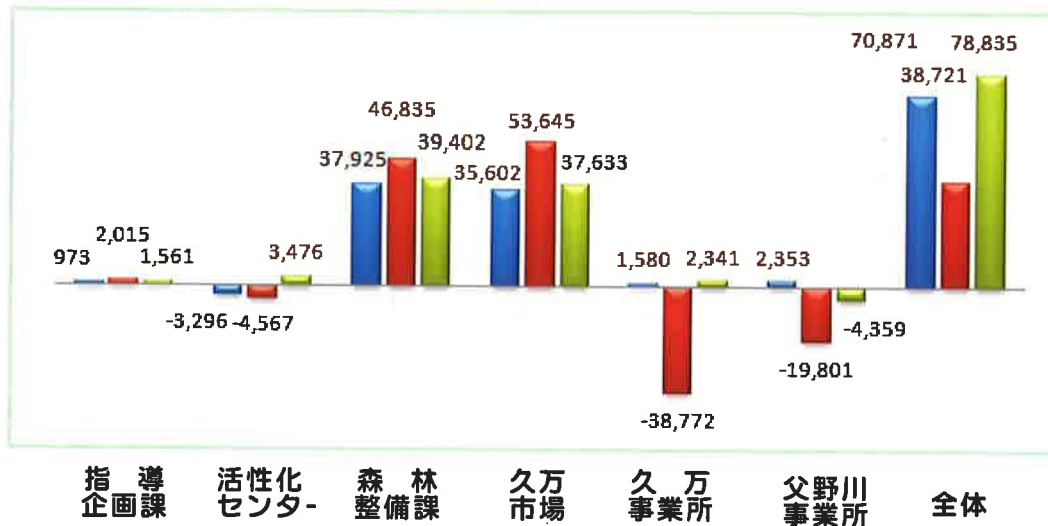
平成20年度は、計画に対し達成率55%となる38,721千円の経常利益となりました。

この百年に一度の大不況と言われる世界的な経済不況の中、製品荷動きの悪さ、市場競合の激化などとりわけ厳しい経営環境の1年でしたが、黒字決算を迎えられたことは、ひとえに組合員の皆さまの原木出荷へのご協力やご支援のおかげと心よりお礼申し上げます。

平成21年度は更なる経営努力を続けて、事業計画（78,835千円）の利益確保を目指します。

平成20年決算状況及び平成21年度事業計画

■ H20計画 ■ H20実績 ■ H21計画



指導企画課

高性能林業機械の取り扱いが多かったため、計画以上の黒字を達成することができました。

20年度

原木価格の低迷により高性能林業機械の取扱量は減少する見込みですが、引き続き積極的に斡旋を行ってまいります。

21年度

活性化センター

利用者の急増で停止していた発注は12月に再開できたものの、計画面積415haに対し発注438ha完了239haにとどまりました。

20年度

活性化プロジェクト事業を620haまで拡大し団地形成に努めるとともに、利益確保も目指します。

21年度

森林整備課

国有林請負事業を展開し、労務確保にも努めたことにより、計画を8,910千円上回る結果となりました。

20年度

引き続き労務確保に努め、民有林(組合員山林)を主体として公有林も含めた事業を展開してまいります。

21年度

久万市場

活性化プロジェクトのおかげもあって、原木取扱量は目標を10,381m³上回る71,581m³を達成しました(過去最高量)。

20年度

70,000m³を計画していますが、原木価格の低迷から経常利益37,633千円の計画となっています。

21年度

久万事業所

改善委員会を立ち上げ、採算の取れる原木価格帯・生産品目の絞り込みを行い、生産計画を打ち出しました。

20年度

引き続きその生産計画に基づいて事業を進め、赤字体質からの脱却を図ります。

21年度

父野川事業所

不況の波が建築数の減少を招き、製品流通の低下のより値下げ合戦が激化し、特に下半期は厳しい状況でした。

20年度

増設した乾燥機を活用して引き合いの多い製品を量産するなど、引き続き営業努力を行ってまいります。

21年度